

かけはし 274

平成28年4月8日(第1号)

“274”とは南郷中の全校生徒数です

校長 野口 司

046-875-9494

冬の間、暖かな陽射しをじっと待っていた木の芽もふき、心がワクワクするような躍動を感じます。桜花爛漫の言葉が実感できる4月5日、新入生101名(3クラス)を迎え、2年生78名(今年度は3クラス編成の少人数で行います。)、3年生95名、合わせて274名で南郷中学校の新しい年がスタートしました。一人ひとりの顔には希望に胸躍らせる喜びと新たな決意が感じられ、大変うれしく思いました。

南郷中学校は、教職員一同、協力して日々の教育活動に努めてまいります。中学校3カ年の学校生活を通して、生徒一人ひとりが教育目標である「自立心」と「共生力」を身に付けて巣立っていけるよう、そして子どもたちが伸び伸びと成長できるよう、保護者の皆様、地域の方々のお力をお借りしながら、取り組むたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年度の教職員の紹介 ☆今年度着任

1 学年

2 学年

3 学年

A組	古城 秀典	数	A組	蓋 孝史	保体	A組	山田 大介	美
B組	萩原 由香理☆	社	B組	三橋 亮	音	B組	木下 さやか	技・家
C組	高橋 貴徳	数	C組	山口 聡	理	C組	坪上 裕香	国
所属	細谷 裕子	国	所属	岩見 仁	数	所属	山川 俊樹	社
所属	水落 勝彦	保体	所属	岡田 知子	英	所属	吉田 将基	理
所属	露木 亜沙美	そよかぜ・英	所属	梶ヶ谷 隼弥☆	そよかぜ・数	所属	平元 遼一☆	英

学年外

校長	野口 司	業務員	関 明校	図書整理員	鎌田 明子
教頭	羽太 完侍	数学講師	八神 由佳里	介助員	長谷川 昌代
養護教諭	角川 桃子	英語講師	中澤 桂子	スクールカウンセラー	三本木 泰代☆
事務主査	青柳 知	A L T	K. W. ヴァルコ	相談員	佐藤 麻衣子

離任職員を紹介します

内藤 久美子 教諭 葉山町立葉山中学校へ
中野 哲哉 教諭 鎌倉市立腰越中学校へ
西山 佳良 教諭 山口県防府市立牟礼中学校へ
森 康紀 教諭 退職
吉川 博子 スクールカウンセラー 退職

新入生の皆さんへ

いよいよ中学生の生活が始まりました。新しい環境で生活を始めるのは誰でも不安なものです。きっと多くの生徒の皆さんが緊張したり、新しい環境になじむためにどうしたらよいらうかなど感じているのではと思います。

もし、悩みや心配事があったら、一人で悩まずにいつでも先生方に申し出てください。必要に応じてスクールカウンセラーの先生や心の教室相談員の先生、養護教諭(保健室の先生)にも相談することができます。

平成28年度 南郷中学校 教育基本方針

◇ 葉山町「学びの憲章」の趣旨を生かす

○個性を大切にし、自分を磨こう。 ○共に生き、ともに育ち、共に学ぶことを喜びとしよう。
○人の温もりと自然の息吹を感じよう。 ○葉山を愛し、世界を拓こう。

1 学校教育目標 「自立」と「共生」

義務教育最後の3カ年である中学校教育をとおし、卒業後をしっかりと見据え、将来に向かって前進できるよう、より確かな「生きる力」を身に付けられるようにする。
そのために、中学校での教育活動をおとして次のような生徒を育成する。

◎ 自立心を育む 【自ら考え行動できる生徒】 【自分を律することのできる生徒】

◎ 共生力を高める

【学校という集団社会で、様々なタイプの級友の中に自分の居場所を獲得できる生徒】

【お互いに個人を認め合いながら集団として行動したときの達成感を通して、人との関わりの中に喜びを見いだせる生徒】

2 重点目標

(1) 学びのサイクル（3年間の継続する教育活動を通して）の充実

- ① 生徒一人ひとりの学力の定着に努める。また、授業を通して、個々の生徒の定着度を捉え、「質問しやすい工夫」や「学習が停滞している生徒の補習」「家庭学習の定着」など具体的な手立てを各学年ごとに計画・実行する。
- ② 一人ひとりの教員が「授業をわかりやすくしっかり教え」「確かな学力を身に付けさせられる」よう努めるとともに、個々の研鑽・授業研究を通して、授業改善を図るとともに、教科指導力（授業力）を高められるようにする。
- ③ 道徳・F G C学習・進路学習・行事等も学びのサイクルの中で効率的に実施されているか、振り返りを行いながら実施していく。

(2) 自信をもって進路選択できる生徒の育成

- ① 教科学習で基礎基本の学力の定着を図り、「わかった」を実感でき、学習力をつけることで、自信を持って進路選択に臨める生徒を育成する。
- ② 教育課程全般をおとして、言語活動の充実を図り、自分の考えが適切且つ端的に表現できる生徒を育成する。
- ③ 教科外活動においても、諸能力を育成し進路選択に生かす。
ア 学級活動・委員会活動等で生徒の活動の機会を積極的に設定する。
イ 部活動等で活躍できる生徒を育成し、進路決定に生かす。

(3) 生徒一人ひとりの個性の理解と支援教育の推進

- ① 支援委員会活動の推進・連携をさらに図り、情報を共有化し、全職員が立場に応じて適切な対応ができるようにする。
- ② 一人ひとりの生徒をよく観察し変化を見逃さないようにし、声を掛けるなど日常的に行えるように心掛ける。
- ③ 「ハートのポケット（相談室）」の周知に努める。
- ④ 教育相談期間の充実を図り、心理的に安心できる環境づくりに努める。

(4) 小規模校であることを利点として、全職員による生徒理解の徹底と保護者・地域と一体となった教育活動の推進

- ① 全職員による一人ひとりの生徒理解を徹底し、様々な角度で支援し、成長の手助けとなるようにする。
- ② 地域との連携を図り、地域の方々の力を借りることによって、多くの大人に見守られている環境づくりに努める。

(5) 南郷中F G C活動の維持・推進

- ① F G C学習を積極的に取り組み、葉山への愛着心を培わせる。
- ② 地域での体験学習等の活動が円滑に進むよう地域との連携、校内資料の整備を図る。
- ③ F G C活動をおとして、礼儀・マナーを学ぶとともに、自分の思いを表現し発表する力を育む。

(6) 学校評価の充実

- ① 教育活動を振り返り、改善する。（前年度の学校評価の結果を受け、改善につなげる）
- ② 生徒・保護者・学校評議員等の学校関係者からの評価を積極的に受け止め、学校改善に活かしていく。